

## ■ 概況

9/28～10/4のNYMEX・WTI先物市場は84.22～91.71ドルの範囲で推移した。

10月5日は、欧米の長期金利の急激な上昇を受けて、景気の先行き不透明感の広がりから、続落した。前日の米国ガソリン在庫の増加報告も、需要の先行き懸念材料となった。11月物終値は前日比1.91ドル安の82.31ドル。

6日は、このところの原油価格低下に伴う安値拾いの買いが広がるとともに、この日発表の9月の米国雇用統計の堅調な推移から、景気・石油需要の底堅さが再認識され、3日ぶりに反発した。ただ、景気が底堅い分、利上げ継続・長期化も懸念され、上値は重かった。11月物終値は同0.48ドル高の82.79ドル。

週明け10月9日は、週末以来のパレスチナのイスラム組織ハマスとイスラエルの衝突・戦闘激化を背景に、湾岸地域の地政学リスクが意識され、続伸した。一部では、イランの関与を疑う報道もあり、対イラン経済制裁強化、ホルムズ海峡の安全航行を懸念する向きもあった。11月物終値は同3.59ドル高の86.38ドル。

10日は、ハマスとイスラエルの衝突に関する供給リスクの意識は幾分和らぎ、前日高値の反動・利食い売りも多かった模様で、3日ぶりに値下がりした。一方、供給リスクに対する警戒感も依然根強く、中国が追加景気刺激策を検討中との報道と相まって、底値は固かった。11月物終値は、前日比0.41ドル安の85.97ドル。

11日は、イランのライシ大統領とサウジのムハンマド皇太子が電話会談、パレスチナ情勢沈静化で一致、中東の地政学リスクに対する過度の警戒感の後退し、また、この日発表

の連邦準制度理事会(FRB)の前回会合議事録が公表、利上げの長期化・継続方針が明らかになったことで、先行きの米国景気の後退が意識され、続落した。11月物終値は前日比2.48ドル安の83.49ドル。

中東産バイ原油/東京市場(11月渡し)は、9月28日～10月4日の間、90.70～96.20ドルの範囲で推移。10月5日87.10ドル、6日85.70ドル、10日88.60ドル、11日89.10ドル。

対ドル為替レート(TTM)は、9月28日～10月4日の間、149.30～149.92円の範囲で推移。10月5日148.87円、6日148.75円、10日148.60円、11日148.66円。

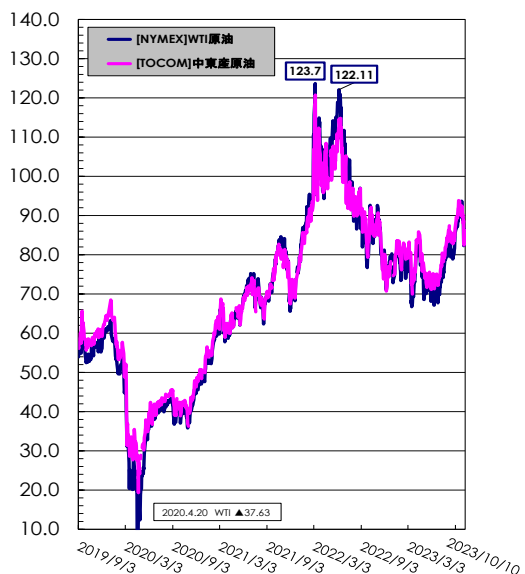
財務省が10月6日に発表した貿易統計(速報・旬間)によると、9月中旬の原油輸入平均CIF価格は80,008円で前旬比2,787円高、ドル建て86.80ドルで前旬比2.52ドル高、為替レートは1ドル/146.54円。

そのような中で、10月10日時点の価格は、ガソリンが前週比2.4円の値下がり、軽油も同2.4円の値下がり、灯油は同32円の値下がり(18リットルベース)。ガソリン・灯油・軽油ともに5週連続の値下がり、ガソリンの全国平均価格は176.9円となった。

10月5日から燃料油価格激変緩和補助金は一段と拡充され、10月12日～18日の補助金の支給額は34.5円(補助金がない場合の次週予想価格209.3円、従来の基準価格168円から185円までの17円部分は60%支給で10.2円、185円を超える部分は100%支給で24.3円)となった。

原油		今週	前週比	前年比
需給	原油処理量 (千kl)	10/1 ~ 10/7	2,801 ▲20	▼ -
	トッパー稼働率 (%)	"	75.6 ▲0.6	▼ -
	原油在庫量 (千kl)	10/7	10,982 ▼-328	▼ -
価格	中東産原油(TOCOM) (\$/bbl)	10/10	86.14 ▼-4.09	▼-6.0
	WTI原油(NYMEX) (\$/bbl)	10/9	86.38 ▼-2.44	▼-4.8
	原油CIF単価 (\$/bbl)	9月中旬	86.80 ▲2.52	▼-24.06
	①原油CIF単価 (¥/kl)	"	80,008 ▲2,787	▼-17,563
	②ドル換算レート (¥/\$)	"	146.54 ▼-0.86	▼-6.61
	外国為替TTSLレート (¥/\$)	10/10	149.60 ▲1.19	▼-2.83

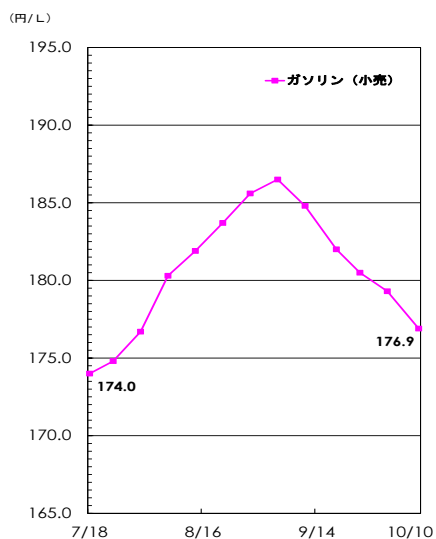
(\$/b)



(単位: 千kl、円/%)

ガソリン		今週	前週比	前年比	
需給	生産	10/1 ~ 10/7	817 ▲ 11	▼ -	
	輸入	"	n.a.	n.a.	
	出荷	"	714 ▲ 128	▼ -	
	輸出	"	156 ▲ 59	▲ -	
	在庫	10/7	1,623 ▼ -52	▲ -	
価格	業転 [陸上ローリー 4地区平均] (RIM)	10/3 ~ 10/9	74.0 ▼ -5.4	▲ 0.5	
	先物 [期近物/終値]	(TOCOM/東京湾)	10/3 ~ 10/9	79.0 ▼ -4.8	▲ 0.8
		(TOCOM/中部)	10/6	78.5 → 0.0	▲ 4.8
	小売 [週動向] (資工庁公表)	10/10	176.9 ▼ -2.4	▲ 8.2	

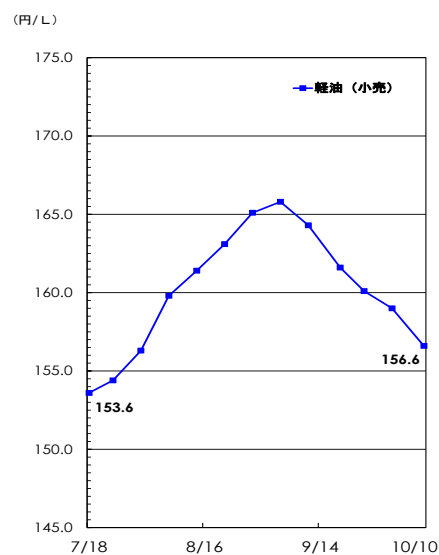
※業転、先物価格は税抜き価格



(単位: 千kl、円/%)

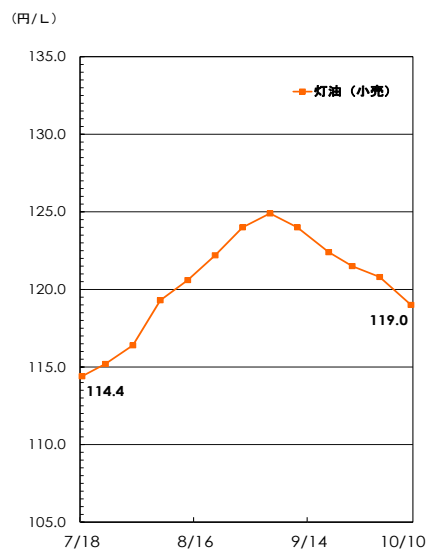
軽油		今週	前週比	前年比	
需給	生産	10/1 ~ 10/7	724 ▲ 3	▼ -	
	輸入	"	n.a.	n.a.	
	出荷	"	642 ▲ 64	▲ -	
	輸出	"	84 ▼ -114	▼ -	
	在庫	10/7	1,318 ▼ -2	▲ -	
価格	業転 [陸上ローリー 4地区平均] (RIM)	10/3 ~ 10/9	74.2 ▼ -3.2	▼ -0.9	
	先物 [期近物/終値]	(TOCOM/東京湾)	10/3 ~ 10/9	80.0 ▼ -3.4	▲ 2.6
		(TOCOM/中部)	10/6	-	-
	小売 [週動向] (資工庁公表)	10/10	156.6 ▼ -2.4	▲ 7.9	

※業転、先物価格は税抜き価格



(単位: 千kl、円/%)

灯油		今週	前週比	前年比	
需給	生産	10/1 ~ 10/7	178 ▲ 41	▼ -	
	輸入	"	n.a.	n.a.	
	出荷	"	40 ▼ -12	▼ -	
	輸出	"	11 ▼ -28	▼ -	
	在庫	10/7	2,880 ▲ 127	▲ -	
価格	業転 [陸上ローリー 4地区平均] (RIM)	10/3 ~ 10/9	74.3 ▼ -2.8	▼ -2.0	
	先物 [期近物/終値]	(TOCOM/東京湾)	10/3 ~ 10/9	78.5 ▼ -5.3	▼ -2.5
		(TOCOM/中部)	10/6	78.0 → 0.0	▲ 1.2
	小売 [週動向] (資工庁公表)	10/10	119.0 ▼ -1.8	▲ 6.9	



■ 関連情報

1 海外/原油

当週(10月5日～11日)のWTI石油先物市場は、5日に続落の82.31ドルで始まったものの、6日には堅調な米国の経済指標、ハマスとイスラエルの軍事衝突もあり反発、翌営業日の9日は続伸したが、10日には反落、11日は続落の83.49ドルで終わるといふ、不安定な動きであった。

10月6日時点の米国エネルギー情報局(EIA)の米国国内週間在庫統計は、9日がコロンブスデーの祝日につき、一日遅れの12日の予定。

EIAによると、10月9日時点で、ガソリンの小売価格は、前週比11.4セント安の1ガロン3.684ドル(145.6円/ℓ)と3週連続の値下がり、ディーゼル小売価格は、前週比9.5セン

ト高と2週ぶりの値下がりの1ガロン4.498ドル(177.7円/ℓ)。

ペーカーヒューズ社によると、米国国内稼働石油掘削装置は、10月6日時点で、前週比5基減の497基と3週連続の減少。

2 国内/製品需給 (1) 出荷

石連週報によれば、2023年10月1日～10月7日に休止したトッパー能力は28.5万バレル/日で、前週に対して4.9万バレル/日減少した(全処理能力は333.1万バレル/日)。

原油処理量は280.1万klと、前週に比べ2.0万kl増加。前年に対しては8.8万klの減少。トッパー稼働率は75.6%と前週に対して0.6ポイントの増加、前年に対しては2.3ポイントの減少となった。

生産は前週に比べてジェット、C重油が減産となり、その他の油種で増産となった。ガソリン/1.3%増、ジェット/16.4%減、灯油/29.7%増、軽油/0.4%増、A重油/4.4%増、C重油/32.8%減。今週のC重油の輸入は0.0万kl(前週比0.0万kl減)。軽油の輸出は8.4万kl(前週比11.4万kl減)。

出荷(輸入分を除く)は前週に比べてガソリン、軽油、A重油が増加し、その他の油種で減少した。前年比では軽油とA重油が増加し、その他の油種で減少した。ガソリンの出荷は71.4万kl(対前週21.8%増)と2週振りに増加した。ジェット3.0万kl(対前週59.9%減)、灯油4.0万kl(対前週24.2%減)、軽

油64.2万kl(対前週11.0%増)、A重油17.5万kl(対前週5.7%増)、C重油16.7万kl(対前週13.2%減)。

(単位:千kl)

	今週 (10/1 ~ 10/7)	前週 (9/24 ~ 9/30)	前週比	
ガソリン	714	586	▲ 128	(22%)
ジェット燃料	30	76	▼ -46	(-61%)
灯油	40	52	▼ -12	(-23%)
軽油	642	578	▲ 64	(11%)
A重油	175	166	▲ 9	(5%)
C重油	167	192	▼ -25	(-13%)
合計	1,768	1,650	▲ 118	(7%)

※今週出荷量 = (前週末在庫 + 今週生産 + 今週輸入) - (今週輸出 + 今週末在庫)

2 国内/製品需給 (2) 在庫

10月7日時点の在庫はジェット、灯油、A重油が積み増しとなり、その他の油種で取り崩しとなった。前年に対しては全ての油種で増加した。

ガソリンは162.3万kl、前週差5.2万kl減。前年に対しては0.8万kl多い。

灯油は288.0万kl、前週差12.7万kl増。前年に対しては52.3万kl多い。

軽油は131.8万kl、前週差0.2万kl減。前年に対しては10.3万kl多い。

A重油は80.1万kl、前週差0.3万kl増。前年に対しては6.6万kl多い。

C重油は200.5万kl、前週差2.0万kl減。前年に対しては20.7万kl多い。

(単位:千kl)

	今週 (10/7)	前週 (9/30)	前週比	
ガソリン	1,623	1,675	▼ -52	(-3%)
ジェット燃料	882	842	▲ 40	(5%)
灯油	2,880	2,753	▲ 127	(5%)
軽油	1,318	1,320	▼ -2	(-0%)
A重油	801	798	▲ 3	(0%)
C重油	2,005	2,025	▼ -20	(-1%)
合計	9,509	9,413	▲ 96	(1.0%)

### 3 国内/製品卸売価格 (1) 元売会社 仕切価格改定動向

10月3日～9日のドル建て中東原油価格は大きく値下がりし、為替レートもわずかに円高で、元売会社の卸価格建値は6.5円の値下がりになったものと見られる。

上記コストに先週の補助金額37.6円を加え、今週の補助金34.5円を差し引いた、10/12～10/18の実質卸価格は3.4円の値下げとなった模様。

### 3 国内/製品卸売価格 (2) 業転価格・先物価格動向

10月3日～9日の製品スポット市況は、9月26日～10月2日平均と比べ、全ての油種・取引で値下がりした。

直近週(10/3～10/9)の陸上スポット価格平均値は、前週(9/26～10/2)比で、ガソリンは5.4円の値下がり、灯油も2.8円の値下がり、軽油も3.2円の値下がりだった。

東京湾渡しの海上スポット平均価格は、直近週(10/3～10/9)に、前週(9/26～10/2)比で、ガソリンは4.5円の値下がり、灯油も2.2円の値下がり、軽油も3.3円の値下がりだった。

先物価格の平均は、前週比で、ガソリンは4.8円の値下がり、灯油も5.3円の値下がり、軽油は3.4円の値下がりだった。

(RIM)		(単位: 円/%)		
(陸上ローリー 4地区平均)	今週 (10/3～10/9)	前週 (9/26～10/2)	前週比	
レギュラー	74.0	79.4	▼ -5.4	
灯油	74.3	77.1	▼ -2.8	
軽油	74.2	77.4	▼ -3.2	

(TOCOM)		(単位: 円/%)		
(期近物/終値 [平均])	今週 (10/3～10/9)	前週 (9/26～10/2)	前週比	
レギュラー	79.0	83.8	▼ -4.8	
灯油	78.5	83.8	▼ -5.3	
軽油	80.0	83.4	▼ -3.4	

※上記価格は税抜き価格

参考値 (10/3～10/9実績値) (単位: 円/%)			
油種	現物	先物	平均
ガソリン	▼ -5.4	▼ -4.8	▼ -5.1
灯油	▼ -2.8	▼ -5.3	▼ -4.1
軽油	▼ -3.2	▼ -3.4	▼ -3.3
A重油	▼ -2.7		

(出所) 現物: RIM社陸上ローリー4地区平均価格

(千葉・川崎・中京・阪神)

先物: TOCOM京浜地区海上バージ渡し平均価格

### 4 国内/製品小売価格

10月10日時点のSS店頭価格は、ガソリンが前週比2.4円安の176.9円、軽油も2.4円安の156.6円、灯油も18%ベースで32円安の2,142円(1%ベースでは1.8円安の119.0円)。ガソリン・軽油・灯油ともに5週連続の値下がりだった。

ガソリンについて、都道府県別には、値上がり・横ばいはなし、値下がり全47都道府県だった。全国最安値は北海道の169.5円、その次は岩手県の169.6円であった。他方、最高値は長崎県の188.3円だった。最も値下がりしたのは山口県(同4.9円安)だった。

次回調査時(10/16)のガソリンの小売価格は、値下がり予想される。

(資工庁公表 [週動向])		(単位: 円/%)			
	今週 (10/10)	前週 (10/2)	前週比	直近高値	
レギュラー	176.9	179.3	▼ -2.4	23/9/4	186.5
灯油	119.0	120.8	▼ -1.8	08/8/11	132.1
軽油	156.6	159.0	▼ -2.4	08/8/4	167.4

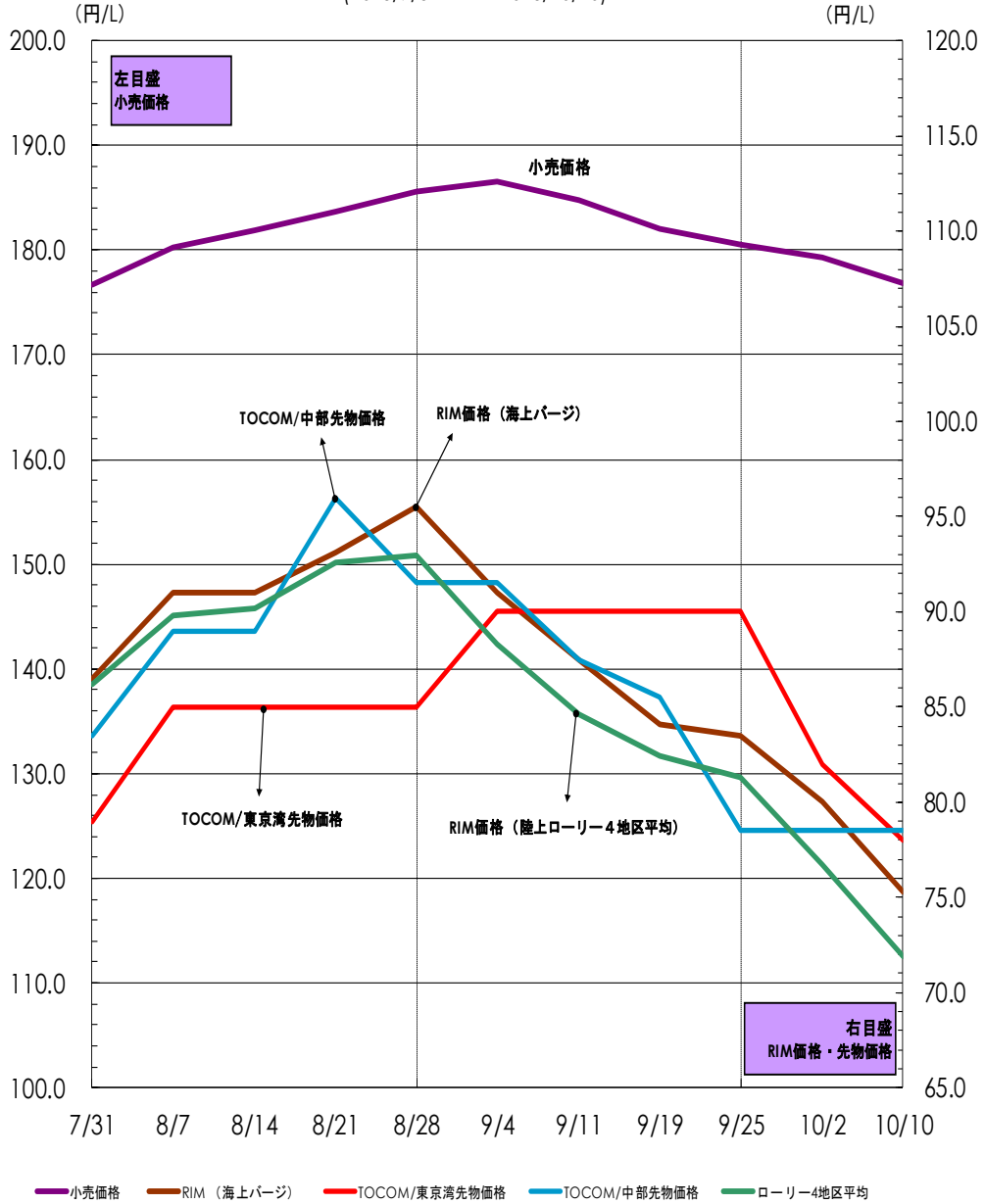
※ 現金一般価格の全国平均値 (消費税込み)

07年4月以降 2,000店舗を対象。

直近高値とは2004年6月以降の最高値。

# ガソリン価格推移

(2023/7/31 ~ 2023/10/10)



(注)①「小売価格」は消費税込みの価格 RIM価格・TOCOM先物価格は税抜き価格  
 ②RIM価格(陸上ローリー)は4地区平均価格

## ■ お知らせ

本レポートは当センターのホームページ (<https://oil-info.ieej.or.jp>) にも掲載しています。  
次回(2023第27号)の公表は、10/20(金)14:00です。

### 本レポートのご利用について

本レポートについて、テキスト、グラフィックス及びその他の情報(以下、併せて「ドキュメント」)に関わるすべての知的所有権は、一般財団法人日本エネルギー経済研究所石油情報センター(以下、当センター)又は当センターヘドキュメントを提供している第三者へ独占的に帰属します。

当センターの事前の書面による承諾を得ることなく、ドキュメントを転用、複製、改変等の一切を固く禁じています。

また、ドキュメント内容に関しては万全を期していますが、その内容の正確性および安全性を保証するものではありません。

### 「ウィークリー オイル マーケット レビュー」とは

平成16年5月に経済産業省資源エネルギー庁資源・燃料部石油流通課 主催の「石油製品市場動向研究会」が取りまとめた中間報告で、「わが国石油産業における市場機能、価格発見機能が更に強固なものとなることが望まれるとともに、中期的な課題として、石油産業において確立していく市場機能、価格発見機能に基づく合理的な価格認識及びそれを踏まえた自己責任の下での経営判断の必要性について、石油産業関係者の認識が更に深まることにより、わが国の基幹産業である石油産業全体としての合理性、活力が一層高まることを期待したい。」と提案されています。

当センターでは、これを受けて石油連盟、全国石油商業組合連合会をはじめ関係機関等の協力を得て、石油関係者、企業の経営者層(特に給油所経営に携わる方々)から一般消費者の方々に対し、原油・石油製品需給や価格動向を的確に理解するツールの一つとして、「ウィークリーオイルマーケットレビュー」を平成17年5月より定期的に発信しています。

### 本レポート掲載データの出所について

#### ①【原油・石油製品需給】〈石連週報〉

石油連盟(石連)「原油・石油製品供給統計」週報データを千KL単位に換算して採用。

「出荷」は当センターの推計。

#### ②【原油・先物価格】〈WTI原油、中東産原油〉

WTI原油は、ニューヨーク商業取引所(New York Mercantile Exchange : NYMEX) WTI原油先物の期近物・終値を採用。

中東産原油は、東京商品取引所(The Tokyo Commodity Exchange : TOCOM) 中東産原油の期近物・終値を採用。 ※「二番限(翌月限)」

中東産原油は、ドバイ原油及びオマーン原油の平均価格を指標としている。為替換算レートとして、三菱UFJ銀行発表TTM(Telegraphic Transfer Middle rate : 中値)を採用。

原油CIF単価は、財務省貿易統計「原油・粗油平均CIF単価」(旬間値)を基に、石油連盟が試算したドル表示の参考値を採用。

#### ③【国内製品・元売仕切価格】

元売仕切価格は、元売会社(一次卸)と系列特約店など(二次卸)との間で売買される卸価格。

元売会社は、平成22年4月以降、現行の新価格体系を見直し、原油や製品相場、他社仕切りなどの動向を総合的に判断し、具体的方針を決める方式に変更。さらに平成26年6月以降、原油コストをより重視する方式に変更している。

#### ④【国内製品・業転価格】〈RIM業転〉

国内陸上ローリー価格は、リム情報開発株式会社(RIM)「LORRY RACK・レポート」の千葉、川崎、中京、阪神の4地区の平均値を採用(いわゆる4RIM価格とは異なる)。

#### ⑤【国内製品・先物価格】〈TOCOM〉

TOCOM 東京湾及び中部石油製品期近物・終値を採用。

TOCOM東京湾は京浜地区海上バージ渡し価格(平均値)、TOCOM中部は中部地区陸上ローリー渡し価格(平均値)。

#### ⑥【国内製品・小売価格】〈週動向調査〉

約2,000SSを対象に週次ベースのSS店頭における店頭現金価格の全国平均値を採用(資工庁公表)。原則として、毎週(月)時点の価格を調査し(水)14:00に公表(資源エネルギー庁HPに掲載)。